

- 田中 博・田中貞子・田中 潤 1996. 元宇品の海藻 1957～1994. 佐々木印刷, 広島:1-215.
- 寺脇利信 1994. 阿多田島の藻場とマメタワラ. 南西水研ニュース, 53:1 と 24.
- 寺脇利信 1996. 藻場, 21世紀の海藻資源, 水産学叢書-2, 緑書房, 東京:1-30.
- 寺脇利信・吉田吾郎・吉川浩二・有馬郷司 1996. 瀬戸内海西部における基面の高さ別のホンダワラ植生の観察, 南西水研研報, 29:49-58.
- Uchida, T., Arima, S., Hirata, S., Saga, N. and Tatewaki, M. 1966. Free-living cells released from thalli of *Sargassum horneri*(Phaeophyta) in culture, *Botanica Marina*, 39: 269-272.
- 吉田吾郎・寺脇利信・吉川浩二・有馬郷司 1997a. 広島湾大野瀬戸における秋に成熟するアカモクの初期生長と減耗, 南西水研研報, 30:125-135.
- 吉田吾郎・新井章吾・寺脇利信 1997b. 広島湾大野瀬戸産ノコギリモク幼体の生長に及ぼす光量・水温の影響, 南西水研研報, 30:137-145.
- 吉川浩二 1997. 成熟母藻投入法と幼胚集積法によるオオバノコギリモク群落の形成. 南西水研研報, 30: 147-162
- (〒 739-04 広島県佐伯郡大野町丸石 2-17-5
南西海区水産研究所)

書評 新刊 紹介



田中博・田中貞子・田中潤 共著
元宇品の海藻
216pp., 佐々木印刷 4,000円

本書は、アマチュア海藻研究者一家の37年に及ぶ息の長い調査によって書かれた力作である。内容は、広島湾奥部に位置する広島市元宇品地先で採集された172種の海藻が、押し葉標本のカラー写真に藻体断面の顕微鏡写真なども加えて示されている、詳しい写真図鑑的なものである。高度経済成長期の大規模な沿岸域開発の波にさらされる以前と、その後の海藻類の量的変化も種別に分かりやすく示され、数少ないモニタリング資料としても、学術上も他に類を見ない貴重な資料と言える。1957年に当時小学3年生であった田中潤氏の夏休みの自由研究がきっかけとなり、家族全員による調査が行われてきたとのこと。家族の趣味としての採集風景や、家族団らんの中での海藻談義の盛り上がる様子などが彷彿として、微笑ましい。

あとがきには、「限られた書物を参考に試行錯誤しながらまとめたものであるので、専門的に見ても誤りも多いと思われる。先輩諸氏のご指摘をいただければ幸甚である。」と結ばれている。海藻は、動物のように周囲に研究者が多くなく、さらに、地理的あるいは季節的な変異の幅が大きく、一地域の海藻しか見ていない著者らの同意に誤りが含まれるのは否めないと思う。むしろ、今後に向けて大切なことは、誤同定を訂正したりリストを改訂版や分布リストとして引用できる形式で公表することであると考えている。

幸い、彼らは調査範囲を広げて現在も調査を継続し、中国新聞に連載中の「海藻の話」を加えて、新たに「広島県の海藻図鑑」の出版を企画中である。それぞれの分類群の専門家に、本誌の採集地案内(185-188ページ)に紹介された南西海区水産研究所を訪問する際などの機会を利用して、標本の精査を望んでおられる。購入に限らず、連絡を入れてあげると、交流の輪が広がり、お互いに有益と考える。

出版元の在庫はすでにわずかで、著者の元に60冊を残すのみとなっている。注文は、著者(731-01 広島市安佐南区山本 8-31-14 田中博)に直接ハガキで申し込めばよい。なお、本の送料と送金料は購入者の負担である。

新井章吾(株式会社 海藻研究所)